



中部航空音楽隊が浜松湖北高校佐久間分校で演奏指導

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征一等空佐）は12月19日（土）、県立浜松湖北高等学校佐久間分校（浜松市）において、航空自衛隊中部航空音楽隊（浜松基地）の吹奏楽部に対する演奏指導を支援した。

まず、生徒たちの技量を確認するために課題曲の演奏から始まり、隊員を前に緊張しながらも、生徒たちは懸命に演奏していた。

今回は、吹奏楽部の部員8人に対し5人の隊員が指導に当たり、パートごと別の教室に移動し、空気清浄機を用いた換気、各人の間隔を十分に取るなど、3密対策を万全にして実施された。

隊員は数分間の演奏から生徒たちの苦手な部分を見つけ、的確なアドバイスを丁寧に伝えながら、生徒たちを飽きさせない練習を行った。

生徒たちは隊員の指導に熱心に耳を傾け、「ブレスの使い方方で音の膨らみ方が全然違う」「テンポに応じた演奏の要領がよくわかった」など、自分たちの技量向上のための知識、要領等を多く吸収できた様子だった。

最後に課題曲を再度演奏し、生徒からは「教わる前より上手く演奏できた」「次のコンサートに向けて自信が持てた」といった声が聞かれた。

静岡地本は、生徒たちが物事に打ち込む姿勢を応援し、今回のように音楽の力などを通じて自衛隊の魅力を発信していく。



本部長がラジオで新年の挨拶

コロナ禍での活動をPR

自衛隊静岡地方協力本部長・杉谷康征一等空佐は1月6日（水）、エフエムしみずのラジオ番組「自衛T・M・E・S★静岡」に出演し、地本の活動や新年の抱負を語った。

感染防止策として、収録はラジオ局のスタジオではなく、静岡地本の本部長室でパーティション越しに行われた。

パーソナリティの三輪祐子氏から昨年の地本の活動について聞かれると、杉谷本部長は「採用試験の延期・変更やイベントの中止など、さまざまな制約を受け厳しい1年でした」と振り返った。

また、そのような状況でも自衛隊を広報する方法として、「ホームページでは、隊員や各駐屯地等を取材した動画シリーズを配信しています。ツイッターでは自衛隊クイズを出題したり、各事務所の活動状況を発信したりして、自衛隊を身近に感じてもらえるよう工夫しています」と、コロナ禍での広報活動を紹介した。

最後に「今年は新型コロナウイルスが終息し、イベントに参加して多くの方々とお話できればと思っています。創意工夫をもって人的基盤の確保に努めてまいりますので、皆様のご理解ご協力をよろしくお願いします」と新年の意気込みを語り、早速自衛官候補生や高等工科学校の試験についてアピールした。

静岡地本は、今後もさまざまなメディアを通じて自衛隊をPRし、県民に親近感を感じてもらえるよう広報活動に努めていく。

